



# 弘前大学同窓会報

## 第24号

発行日 令和5年3月31日  
発行者 弘前大学同窓会  
題字 吉田 豊 元学長



### 希望を語る

弘前大学長 福田 眞作

昨年の教職員向けの年頭の挨拶で、作家である井上靖の名言「努力するものは希望を語り、怠けるものは不満を語る」を紹介し、「この1年間、皆で希望を大いに語ろう!」と呼びかけました。発する言葉を聞けば、その人の態度はすぐにわかります。希望を語っているのなら「前向きに努力している人」である証であり、不満ばかり口にする人は「自分は怠けている」と言っているようなものです。私たちは努力するから希望が湧き、希望が湧くから努力できるのです。

コロナ禍3年目にあたる令和4年度、教職員はしっかりと前を向き、本学の未来を展望し(希望を語り)、様々なプロジェクトに挑戦しました(努力しました)。その結果、①文部科学省による大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の拠点、②文部科学省・国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT) = 健康を基軸とした経済発展モデルと全世代アプローチでつくるwell-being地域社会共創拠点」、③文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現

イニシアティブ(特性対応型)事業」、④内閣府「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」と、4つもの国の事業に採択されました。補助金の総額は年間4億にも上り、本学の教育研究・管理運営の充実が図られるものと大いに期待しています。令和5年はこの追い風に乗って、国の大型プロジェクト「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に挑戦する予定です。本学の未来を占うものであり、同窓会の皆さんと一緒に是非とも「新しい景色」を...と思っています。

一方で、大学にとって最も重要なステークホルダーである学生に目を向けたとき、この3年間、大学生は希望を語るができなかったのではないのでしょうか。学長就任後、全学部の新入生を対象に学生との懇談会を始めました。「新入生が孤立していないか、急ぎ必要な支援は何か?」を把握できたことで、様々な学生支援を迅速に実施できました。その後は懇談の対象を全学年に、またテーマも学生生活、学修環境、そして課外活動に広げ、年2回ほど開催しています。本来は私たちが先に察知して解決すべき課題をたくさん

### 学務部学生課 弘前大学学長と学生との懇談会

「弘前大学学長と学生との懇談会」は、学長と学生が本学における学生生活及び学修環境の充実並びに学生の主体的な活動への必要な支援等について忌憚のない意見を交換し、本学が実施する事業に当該意見を取り入れることにより、本学の教育・学生支援の充実を図ることを目的として令和4年4月に設置されました。令和4年度は、学長、教育担当理事、学務部長及び各学部、研究科所属の学生が参加し、7月4日及び12月5日の2回開催されました。

懇談会では、「学生生活」、「学修環境」、「課外活動」のテーマについて意見交換が行われ、学生から様々な意見や提案が出されました。

それらの意見等から「自動販売機の増設」、「ミーティングや勉強がで

きるようなスペースの整備」、「パソコンの充電スペースの整備」、「課外活動施設へのエアコンの整備」等関係部署が随時対応しているところです。

また、学生からの要望について、学生自身がアイデアを出し合い対応を検討している事例もあり、本学の事業に学生の声を取り入れ、学生と連携しながら大学づくりを行うことにも繋がるものと考えています。

#### 学長からの感想

学修面に限らず課外活動に関する要望など、学生目線からの意見をたくさんいただき、とても有意義な懇談会でした。全ての要望に応えることは出来ませんが、できるだけ改善に努めております。これからも懇談



指摘いただき、軽微なものについてはすでに担当部署に対応していただきました。また、講義室のエアコン設置や和式トイレの洋式化などは国の支援を期待できないため、寄附金を含め大学独自の予算を確保し、すでに数年計画で設置・改修を実施しており、まもなく完了する予定です。

他に、課外活動で使用される体育館や運動場の老朽化への対応を望む声も多く、計画的に改修・整備ができないか検討を始めています。同窓会の皆様方には、本学で学ぶ後輩が語る希望の一つでも多く実現できるよう、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



### キャンパス詠草

千葉 蒼石 (同窓会副会長 千葉 信行)

弘前大学創立70周年に関する諸行事もすでに無事終了し、年も改まって令和も5年になった。官立弘前高等学校以来のこの文京町キャンパスのあれこれを句にまとめてみた。

#### フーコーの振り子振りゆき年明け

L・フーコーが地球の自転を立証した振り子の装置。これを模して作られたものが理工学部2号館に設置され、止まらずに振り続けている。

#### 初講義これより始む古事記伝

古事記の注釈書。本居宣長著で44巻より成り、国学の方法を探求した労作といわれ、古代史・古代研究の典拠となっている。

#### 監督のお国訛りや大試験

センター試験、2次試験をくぐりぬけて見事に合格。部員勧誘を兼ねて部員達が手荒に祝福する。コロナ禍のこととて近年は中止? 講義も?

#### 若葉風テラム・カンリの登頂碑

若さ等へ碑文の語る夏木立

#### キャンパスに緑増やせしトロンボーン

事務局と創立50周年記念会館の間に青春の像、官立弘前高等学校同窓生の名前が刻印された碑もあることはご存じでしょう。創立70周年記念リレー学術講演会の第一陣として、教育学部の和田美亀雄教授によるトロンボーンの壮大な音色がみちのくホールに響き渡り、あたかも未来への創造を示唆するかのようであった。

会を重ね、学生の皆さんと一緒に「学生に優しい」大学づくりを心掛けてまいります。

#### 参加学生からの感想

(教育学部1年 大川 純平)

まずは二度も学長と学生の懇談会という貴重な話し合いの場に参加させていただき、本当にありがとうございました。この会に参加して感じたことは、弘前大学はやはり学生を中心に回っているということです。

- 光太郎詩碑思ひけりエゴの花
- 桜桃毘太宰のノートに化学式
- 緑陰に津島園子の謝辞わたる

資料館が設置され、太宰のコーナーにあったノートである。創立60周年の記念行事として文学碑が建立された除幕式の際のこと。

- ダ・ヴィンチの手術の仔細爽やかに
- 寛さんのメタセコイアに小鳥来る

同じく創立70周年記念リレー学術講演会で大山力現病院長の講演から。ダ・ヴィンチシステムは腹腔鏡手術を支援する内視鏡下手術支援ロボットで、医師が内視鏡画像を見ながら操作して手術する。東北・北海道地区では初めて導入され、既に500症例以上を達成しているとのこと。先進的医療技術の開発と進展にさらなる期待がかかる。

寛さんとは第2代学長郡場寛先生のこと。記念樹メタセコイアは中生代と中新世の遺存種である。

#### 白神の酵母醸せし新種かな

農学生命科学部附属白神自然環境研究センターに関連する酵母の発見は、醸造界にとっては画期的な出来事であった。

#### 土器繋ぐ考古学生寒九郎

北日本考古学センターの諸活動は皆様ご承知のことでしょう。

以上句作においてもこのキャンパスは魅力的である。尚、一部は所属する俳句結社「門」及び「文藝弘前」に掲載済のものもあることをお断りしておきます。 「門」門燈同人

一方的に物事を決めるのではなく、学生の提案一つひとつをまずは受け止め、前向きに検討するという姿勢が強く伝わってきました。そして、学生にしか見えない視点から学生生活を捉え直すというのは、この会の最大の強みだと私は考えます。これからも学長、教職員の方々と協力しながら、弘前大学が私たちにとって過ごしやすい大学となるよう努めていきたいです。



弘前大学では、県内全域のネットワークを強化しながら地域創生に取り組むために、サテライトを設置しております。

「八戸サテライト」では、八戸商工会館内に地域連携コーディネーター2名と事務職員1名を配置しており、弘前大学と八戸市を含む県南地域との密接な連携を図ることを目的として、



八戸サテライト入口

広報活動や産学連携に関する相談、地域企業等のニーズと弘前大学の

# サテライトの概要と近況

シーズのマッチング等を行っております。

また、学内公募事業として特定テーマの研究へ支援を行っており、令和元年度からは、ナガイモの新規機能性・特性および商品化へ向けた研究の支援を、令和2年度からは、八戸地域の特性を活用した持続可能な陸上養殖産業の創出をテーマに、本学地域戦略研究所と公益財団法人が連携して、トラフグの陸上養殖の実証研究を行っております。

加えて、様々な公開講座も行って

おり、令和4年2月には本学地域共創科学研究科の片岡俊一教授を講師に招き、「三八地域の地震動の特徴と地震防災」をテーマにした防災セミナーを開催いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインでの配信となりましたが、県南自治体の防災担当者から一般市民まで様々な方が受講し、三八地域の地震の特徴や今後の被害想定、防災について学びました。

他方で、まち全体をキャンパスと見立てたバーチャル型のキャンパス事業である「むつサテライトキャンパス」及び「深浦エコサテライトキャンパス」では、自治体との連携協定に基づき、自治体が事務局を担い、地域の活性化に資する事業展開を目的として、滞在型学習、公開講座等の事業を展開しております。

これらのサテライトに加え、令和4年11月からは新たに、「青森サテライト」が始動いたしました。県庁所在地である青森市における弘前大学の総合窓口として、青森市役所柳川庁舎内に地域連携コーディネーター1名を配置し、広報活動や産官学連携に関する相談、青森市周辺地域市町村との調整等を行うための活動拠点としてい



青森サテライト看板

ます。各サテライトについては、弘前大学地域創生本部ホームページや各サテライト（八戸・青森）ホームページで確認できます。ご覧になっていただき、機会がございましたら、ぜひご協力・ご活用くださるよう、よろしくお願いたします。（地域共創本部）

## 医学部医学科通信



医学研究科長  
**廣田 和美**  
(昭和61年 医学科卒)

2020年4月1日から医学研究科長兼医学部長（医学科長）に就任した廣田和美と申します。医学科並びに医学研究科の2022年の特記事項は、文部科学省・科学技術振興機構の共創の場形成支援プログラム「COI-NEXT」事業に採択されたことです。2013年に採択された革新的イノベーション創出プログラム「COI STREAM」事業に続いての採択となりました。これまでのCOI STREAM事業において、産学官民一体で、青森県の最重要課題である「短命県返上」を一大目標に住民の健康づくりに取り組んできました。しかし、事業を進めてきた結果、中高年の健康増進以上に、より早期からの予防介入をする、つまり若者のヘルスリテラシーの向上が最も重要であることが分かりました。このため、COI-NEXT事業では、全世代介

入、特に若者の健康を基軸とし、具体的には、ゲームアプリや美容といった若者が関心を持ちやすいキーワードを駆使して、日常生活を送りながら自然にヘルスリテラシーを身に付けることを目標に進める予定です。さらには、今まで培ってきた研究基盤を基に「真の国際研究拠点の形成」という目標も掲げ、両者を一体的に進めることで「世界に発信し、地域と共に創造する」という弘前大学のスローガンを具現化できると考えております。そのために、現在ある健康未来イノベーションセンターの他に、ビッグデータ解析をする健康・医療データサイエンス研究センターと基礎研究を行うバイオメディカルリサーチセンターを設置し、3本の矢を進める予定です。その結果、弘前大学を他の地方大学とは一線を画する格上の準研究大学とすることで、在学生並びに卒業生が本学に誇りを持てるようになることを願っており、今後も頑張りたいと思っております。

## コロナ禍における学生支援 2022

新型コロナウイルス感染症の影響により、家庭からの仕送りやアルバイトが少なくなるなど、学生生活にも大きな影響が出ています。このことから、弘前大学では経済的に困窮した学生が修学を断念しないよう、あらゆる支援をしていきたいと考え、様々な学生支援事業を行っています。

### ～令和4年度に実施した主な学生支援～ ◆100円昼食弁当・夕食

本事業はコロナ禍の影響で経済的に困窮する学生の食生活支援と栄養面でサポートを目的に実施しており、450円相当の食事について学生に100円だけ負担してもらい、差

額の350円は弘前大学基金やクラウドファンディングを通じて弘前大学の教職員や卒業生、一般の方からいただいた寄附金を充当しています。

本事業は令和2年度から実施して



いますが、令和4年度は約4万5,000食、これまでの累計では約15万8,000食（令和4年12月現在）を学生に提供しました。

## 医学部保健学科通信



放射線技術科学専攻主任 教授  
**工藤 幸清**  
(平成元年 医療技術短期大学部卒)

放射線技術科学専攻では、令和4年4月より新しいカリキュラムがスタートしました。看護学専攻と検査技術科学専攻も新カリキュラムになりましたが、ここでは放射線技術科学専攻を紹介したいと思います。

診療放射線技師の業務拡大に伴い、放射線技術科学専攻の教育カリキュラムを改正してきました。診療放射線技師の業務に関連した法律では、平成27年に、確保された静脈路に造影剤注入装置を接続・操作する行為ならびに造影剤投与後の抜針・止血を行う行為、肛門にカテーテルを挿入する行為ならびに当該カテーテルから造影剤・空気を注入する行為等が可能になりました。この業務拡大に伴い教育カリキュラムでは、平成28年度より臨床関連基礎医学と医療安全管理学を新設し、卒業所要

単位をそれまでの126単位から3単位増の129単位としました。

さらに令和3年には、造影剤投与やRI検査時の医薬品投与のための静脈路確保の行為等が可能になるなど法律が大きく改正されました。つまり、目的は制限されますが診療放射線技師も静脈路を確保することが可能となり、医師・看護師の負担を軽減することに繋がります。そのためにも診療放射線技師は必ず告示研修（義務研修）を受けなければなりません。教育現場もこのような診療放射線技師の業務拡大に対応するため、臨床画像学と実践臨床画像学を新設し、医療安全管理学ならびに臨床実習の単位を増やすことで臨床系の科目を充実させました。また、臨床系の科目のみならず教育カリキュラム全体の見直しを行い、令和4年度、現1年次学生を受け入れております。卒業所要単位は、これまでの129単位から8単位増の137単位となり、学生の負担は増えますが、これからの医療を担う人材として頑張っていたいただきたいと思います。

## 理工学部通信

### 宇宙を究めたい

宇宙物理学研究センター センター長  
理工学研究科 教授  
**浅田 秀樹**  
(平成6年 理学研究科修了)

2022年4月、理工学研究科に宇宙物理学研究センターが設置されました。物理学および天文学において、「マルチメッセンジャー重力波天文学」、「ブラックホール」および「ダークマター・ダークエネルギー」などの研究が世界的に急務となっています。本センターは、宇宙物理学分野の教員間の連携をこれまで以上に高めて、上記の研究を加速させることを目指します。宇宙、そして自然科学に関する若い世代の興味を喚起する目的で、講演会等を開催することによって地域社会にも貢献する予定です。



センターの看板設置風景  
(中央が浅田センター長)

設置初年度の8月、主に高校生向けの講演会を理工学部10番講義室にて開催しました。折しも8月豪雨の翌日の開催にもかかわらず、参加者を迎えることができました。講演者のひとりである筆者は、コロナ禍で初めての学内での対面形式での一般講演だったため、緊張しました。講演終了後に、参加した高校生との質疑応答もあり、対面形式の良さを改めて認識することができました。

一方、研究の面では、本センター設置前からメールで交流があったプレーメン大学の宇宙グループとの間で、オンラインセミナーを設置直後の4月と5月に交互に主催しました。お堅い国際学会とは違い、肩肘の張らない雰囲気だったので、大学院生たちも積極的に質疑に参加する経験を積むことができました。

コロナ禍により各所にて様々な制約がありましたが、本センターもこれから積極的に内外での交流を進め、地域社会への貢献も加速させたいと思います。皆様からのご支援・ご鞭撻を賜れば、幸甚です。



弘大生の就職状況

キャリアセンターでは、学生の就職相談をはじめ、就職ガイダンスや学内企業説明会の実施など、様々な就職支援を行っています。令和4年3月卒業者の就職率はオンラインによる就職活動の定着など、企業の採用環境が変化する中、98.1%と高水準でした。

就職先の状況を地域別に見てみると、青森県内への就職者は、全就職者831人のうち256人で、30.8%を占めて第1位、次いで北海道が155人で18.7%を占めています。昨年度と比較して増減の大きかった地域をみると、青森県内就職率は1.8ポイントの上昇となり、逆に東京都を除く関東地方で1.1ポイント減少した一方で、東京都は2.1ポイント上昇しました。東京都を含めた関東全体としてみると、1.0ポイントの増となりました。この背景として、各企業でWEBによる選考が本格化された

学生からは、「コロナで大変な学生が多い中、100円でごはんを提供していただきありがとうございます。みなさまに支えていただいていることで、円滑に学生生活を送ることができ、本当にありがたいです。」と、感謝の声がありました。

◆地元産品で地域と弘大生をつなぐプロジェクト



このプロジェクトは、包括連携協定を結んでいる県内市町村との協働により、①各市町村選りすぐりの地

キャリアセンターから

ことにより、特に首都圏の企業の選考に参加しやすい状況となったこと、テレワーク等の働き方の多様化も見られ、首都圏への就職の懸念が緩和したものと考えられます。

業界研究・企業等研究への支援

キャリアセンターでは、学生の皆さんが職業観や就業機会について考えること、業界や企業を理解し、その魅力等を知ってもらうことを目的に、キャリア教育の一環としてバスツアーによる企業等見学会を実施しています。今年度は夏季休業期間を使い、弘前地区・青森地区・八戸地区・岩手県の4つのコース、11の企業等を訪問見学しました。見学先には、予めより寄せられていた公的機関を見学したいという要望に応え、青森地方裁判所や八戸市庁も見学先に組み込み、また、岩手県のツアーは「ものづくり企業」にスポットを

元産品詰め合わせの無料配布(約3,000人分)と、②学生食堂で地元産品を活用したメニューの無料・低価格提供を行うもので、令和4年11月9日から3日間実施しました。各会場には多くの学生が訪れ大盛況となり、学生からは感謝と喜びの声があがっていました。

◆弘前大学生生活支援奨学金

弘前大学生生活支援奨学金は、一時的な経済的理由により、生活が困難な学生に対し生活費に充てる奨学金を貸与する制度です。令和2年度からは新型コロナウイルス感染症などの特別な事情により生活が急変した場合にも対応できるよう事業を拡充し、上限額・貸与回数に制限を設けず、学生を支援しています。

(広報・情報戦略課)

当てたツアーにしました。八戸地区や岩手県は移動時間が余計にかかるため、1日かかりのツアーとなり途中から参加学生に疲れた様子が見られたものの、アンケートには「自分の将来に新たな選択肢が生まれたように感じられた」、「現在の専攻に関わらず就職先候補の選択肢を増やして行きたいと考えた」、「実際に先輩社員の話を聞くことで社会人としてのイメージがもてた」など収穫があったという主旨のコメントがみられ、本見学会が学生の視野を広げる良い機会となったようでした。

人文社会科学部通信



人文社会科学部 准教授 葉山 茂 (平成10年 人文学部人文学科卒)

大学院修了から20年ぶりに母校に戻り、令和2年4月から博物館学を担当しています。学部・修士の時代は民俗学・生態人類学を学びフィールドワークを通じて体験的に地域の社会や文化を学んできましたが、博物館で活動した経験から、現在は学芸員資格の取得をめざす学生や民俗学に興味を持つ学生などと活動しています。

博物館学の授業では、フィールドワークの経験を活かして体験的に学ぶことに力を入れています。たとえば、展示に関する授業では各学生が「自分を展示する」をテーマに展示を制作しストーリーや工夫点を解説するとともに、他の人の展示解説を聞いて展示のよくできている点、工夫が必要な点を批評し、最後に自分の展示の改善点を考えるプログラムを実施しています。博物館資料

「就職支援に熱心に取り組んでいる大学」に選出

本学は日本経済新聞社と日経HRが実施した大学イメージ調査の「採用を増やしたい大学」において、2019年度の第1位選出、2021年度の第2位選出に続き、2022年度は「就職支援に熱心に取り組んでいる大学」において第2位に選出されるなど、企業様より高い評価をいただいております。これもひとえに卒業生の皆様のご活躍の賜物と感謝申し上げます。キャリアセンターでは、今後も就職支援の充実に取り組んでまいりますので、皆様からのご支援をいただければ幸甚に存じます。

は単なる物質ではなく、多様な情報をもつ社会的な存在です。学生が資料の背景を読み解き、ストーリーを構成する力をつけられるように心掛けています。学芸員課程の総仕上げである博物館実習では昨年度から2年連続で、図書館に収蔵された旧制弘前高等学校資料の整理とその成果に基づく展示をしています。

人文社会科学部ではフィールドワークは研究プロセスの一つとして重要な位置を占めますが、近年のコロナ禍によりフィールドワークが困難になっています。また学生同士がともにいる時間が減っている状況もあります。そうした状況を危惧し、人と会い時間をともにすることの重要性を伝えるべく、令和4年12月から翌年3月まで弘前大学資料館第31回企画展「ともにいること・ともに食べること—アフリカ・アジア・わたしたちの食」を開催しました。

今後も学生たちのやりたいことや状況を把握しながら、博物館学・展示を通じてさまざまなメッセージを発信していきたいと考えています。

戦後は『漫画少年』(学童社)を創刊し、手塚治虫の「ジャングル大帝」を世に出し、寺田ヒロオ、藤子不二雄、石ノ森章太郎、赤塚不二夫ら戦後を代表する漫画家たちが同誌の漫画投稿欄から育っていきました。

少年文化の大きな担い手であり「昭和の名編集長」と謳われた加藤は、昭和50年に79年の生涯を閉じますが、その原点は青森県師範学校(弘前大学教育学部の前身)を卒業して赴任した富田尋常小学校で発行した、学級誌『なかよし』にありました。自らが編集したガリ版刷りの雑誌に子どもたちが喜ぶ姿を見て「子どもの雑誌は教育者の視点で作るべき」と一大決心をし、加藤は全国の子どもたちが喜ぶ雑誌を作るために上京したのです。前掲の記念碑(平成22年9月建立)には、加藤が手がけた『少年倶楽部』『漫画少年』の源流となった学級誌の名と、終生変わることのなかった加藤の信条が刻まれているのです。 附属図書館HPより転載



農学生命科学部通信

農学生命科学部が取り組むミッション 実現戦略事業について

分子生命科学科 教授 殿内 暁夫 第4期中期目標期間において各国立大学が教育研究活動を通じて「社会的インパクト」を創出するための取組が推進されることになりました。文部科学省では「社会的インパクト」を明確に定義していないため、各大学が独自に定義しなければなりません。弘前大学ではこの事業を学内公募として各部局が定義した「社会的インパクト」を評価しました。農学生命科学部では食から環境までを行える学部の特色と地域が学部に求めていることを念頭に、「社会的インパクト」を研究成果の社会実装と定義し、取組む事業を「青森県の食産業や観光産業の振興を食料開発分野と環境分野の両面から研究を進め、食料開発分野では研究成果の社会実装(新商品開発と販売・新品種の開発と実用化)、環境分野では一次産業・観光産業や自然環境保全、

環境教育を通じ地域への貢献を行う」ことを提案しました。幸いなことに本提案は高く評価されて十分な予算措置を受けることになりました。事業期間は令和4年度からの6年間で、その間に新品種・新商品の開発件数15件、研究成果等のプレスリリース数18件を目標としています。農学生命科学部では第3期中期目標期間において「アグリ・ライフ・グリーン分野における地域の特性・資源を活かしたイノベーション創出・人材育成(通称戦略1)」を実施し、新商品(黒ごぼう茶・清酒・シードル・ワイン等)・新品種(コメ等)開発や特許申請件数等で十分な成果を得て、文部科学省から高い評価を受けています。今回の事業は実質この戦略1の後継事業に位置づけられるものですが、自然環境保全に関しては豪雨による県内を受けた多大な被害から新たに取組む必要があると考え、事業の中に加えました。地域が求めるものを注意深くリサーチしながら、事業に注力してまいりますのでよろしくお願い致します。

教育学部通信



弘前市立郷土文学館企画研究専門員 榎引 洋一 (昭和53年 中学校教員養成課程卒)

弘前大学の正門から教育学部へと向かう真っ直ぐな道。途中、大学附属図書館のあたりに建つ記念碑には、「なかよし」の文字と「子どもは国の宝だ 子どもたちを明るく 健やかに育てる仕事に 身を捧げたい 加藤謙一」という言葉が刻まれています。平成30年、現在勤務する弘前市立郷土文学館で第42回企画展「名編集長・加藤謙一」を開催する中で、その人物像に強く惹かれるものがありました。

加藤謙一は明治29年に弘前市に生まれ、大正10年、大日本雄弁会講談社に入社。『少年倶楽部』の若き編集長として奮闘し、佐藤紅緑「あゝ玉杯に花うけて」の連載、画期的な別冊付録の企画、漫画「のらくろ」「冒険ダン吉」の連載など「おもしろくてためになる」雑誌作りに努め、『少年倶楽部』の黄金時代を築きます。



# 総合文化祭



学祭本部実行委員会 委員長  
理工学部2年  
坂本 真樹

令和4年度の弘前大学総合文化祭(以下、総合文化祭)は、10月22日(土)から23日(日)にかけて行われました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止、令和3年度は感染症対策のため来場は学内関係者のみとし、イベントをライブ配信する形で日数も1日に短縮しての開催でしたが、今年度は3年ぶりに対面で開催すること

ができました。実行委員の人数が少なかったこともあり、総合文化祭の開催を学内外共に十分に周知することができませんでしたが、2日間で学外の方も含め約3,000の方に来場していただきました。

今年度のテーマ【壮像】は、「人との関係がよく見えない今日、総合文化祭はたくさんの人と繋がりがあを気づかせてくれる。『想像』させてくれる。私達の世界は決して閉塞してなんかいない。『壮大』なんだと教えてくれる場であってほしい」という想いが込められています。今年度も福田学長のご協力をいただ

いて、Opening Festival 及び Final Festival を始めとする様々なイベントを実施しました。また、リングミュージックからジョナゴールド、りんご娘、ライスボールを招いてのスペシャルライブを開催しました。青森ゆかりのアイドルということもあり、ライブ会場となった創立50周年記念会館みちのくホールは非常に盛り上がりました。他にもステージイベント、展示、よさこい演舞などが行われ、部活・サークルによる出店も復活しました。長引くコロナ禍で閉塞感や孤独感が強まっている今日ですが、以前の賑わいが少しでも

戻ってきたことを嬉しく思っています。来場者の方にも、閉塞感を吹き飛ばすような弘大生の元気な姿を見ていただくことで、総合文化祭を楽しんでいただけたのではないかと

思っています。最後に、総合文化祭を開催するにあたり、近隣住民の皆様、企業の皆様、本学の教職員の皆様など非常に多くの方にご協力をいただきました。「たくさんの人との繋がりがああったからこそ成し遂げることができた」と、実行委員一同大変感謝しております。実行委員を代表してここに厚く御礼申し上げます。

## 学生広報スタッフインタビュー ヒロマガとのコラボ企画

弘前大学の広報活動において、在学生の主体的な目線に基づく若い世代への情報発信を目的として、2022年6月に学生広報スタッフが誕生しました。その中から長谷川陽依さん、山崎太智さん、金江遼さんにお話を伺いました。

長谷川さん：広報という仕事に興味があってスタッフになりました。天文同好会COSMOの取材をし、大学公式ウェブマガジン「HIROMAGA(ヒロマガ)」の記事を作成しました。取材をとおして自



分と違う考えをもつ人に触れ、世界観が広がりました。始動した広報マスコットキャラクター企画に積極的に関わっていきたくです。高校生に対して大学案内等だけでは伝わらない弘前大学のディープな魅力を伝え、志望校にして貰えたらうれしいです。

山崎さん：たまたまTwitterをとおしてスタッフのことを知り参加しました。卒業生が在生に対して弘前の街を案内する企画「弘前で暮らす」に札幌出身の1年生として関わりました。街歩きの体験はとて新鮮でした。今後は映像コンテ



ンツ制作に挑戦したり、札幌の高校生に弘前や弘前大学を知ってもらう機会をたくさん作りたいです。

金江さん：メディア活用を学ぶ講義の中でスタッフの紹介があり加わりました。パベルクラブの取材をして、それをヒロマガの記事として作成しているところです。実際に取材を経験してみて、自己成長に繋がる学びが得られることを実感しています。高校生へ向けて弘前大学に入ってよかったという思いを、また寮生として、卒業した寮生の方々へ寮の近況について伝えてみたい



です。(編集委員 一條)



この記事は、弘前大学公式ウェブマガジン「HIROMAGA(ヒロマガ)」とコラボしています。こちら是非ご覧ください。<https://www.hiromaga.com/>



## 「吉田基金」TOEIC賞授与式

同窓会では、平成14年より弘前大学の国際化教育の支援を目的として、TOEICの高得点者(900点以上)を対象とし、審査の上で賞状と副賞を授与しています。

令和4年度は、人文社会科学部4年の岡部拓未さんが925点、医学部医学科1年の相場奏さんが945点で受賞し、令和5年1月13日に授与式が行われました。

相馬同窓会会長から、本賞制定の経緯ならびに趣旨が述べられ、それに照らした活躍を期待するとの激励と祝辞がありました。



岡部さんからは、模擬試験の結果を自己分析し、隙間時間にスマホアプリを活用して苦手分野を克服する努力が今回の高得点に結びついたことや、今後さらに学習を進めたいとお話がありました。相場さんからは、幼少の頃から英語の勉強が好きで、昨夏にはカナダへ短期留学をしたことや、この度培った英語力をこれからの医学研鑽に活かし、自身の強みにしたいとお話がありました。是非この度の受賞を糧にして、世界を視野に入れた今後の活躍を期待します。

## 令和4(2022)年度 弘前大学同窓会役員名簿

名誉顧問	吉田 豊	弘前大学元学長
顧問	藤正 彦	弘前大学元学長
顧問	佐藤 真	弘前大学前学長
顧問	福田 眞	弘前大学前学長
顧問	三上 眞	弘前大学同窓会元会長
顧問	西澤 一	弘前大学同窓会前会長
会長	相馬 正	教育学部同窓会会長
副会長	千葉 信	理工学部同窓会会長
理事	建部 礼	人文社会科学部同窓会会長
理事	葛西 法	人文社会科学部同窓会副会長
理事・事務局長	工藤 睦	教育学部同窓会顧問
理事	澤田 美	医学部医学科同窓会理事長
理事	澤田 雅	医学部医学科同窓会常務理事
理事	小山内 暢	医学部保健学科さくら会会長
理事	千葉 満	医学部保健学科さくら会副会長
理事	山上 佳	理工学部同窓会副会長
理事	高谷 清	農学生命科学部同窓会会長
理事	熊谷 幸	農学生命科学部同窓会副会長
監事	小笠原 潤	人文社会科学部同窓会副会長
監事	糠塚 いそし	理工学部同窓会会員

## 令和3(2021)年度 弘前大学同窓会決算報告書

1. 収入の部		
項目	令和3年度予算額	令和3年度決算額
前年度繰越分	1,354,972	1,354,972
同窓会費		
人文学部同窓会	185,500	185,500
教育学部同窓会	112,000	112,000
医学部医学科同窓会	78,400	78,400
医学部保健学科さくら会	140,000	140,000
理工学部同窓会	252,000	252,000
農学生命科学部同窓会	150,500	150,500
預金決算利息	10	14
計	2,273,382	2,273,386
2. 支出の部		
項目	令和3年度予算額	令和3年度決算額
印刷費	320,000	267,432
役員費	298,220	299,367
会議費	30,000	589
旅費	5,000	0
通信費	6,000	5,874
消耗品費	3,000	858
雑費	30,000	5,110
繰り越し・予備費	1,581,162	1,694,156
計	2,273,382	2,273,386

## 令和4(2022)年度 弘前大学同窓会事業予算書

1. 収入の部		
項目	令和3年度決算額	令和4年度予算額
前年度繰越分	1,354,972	1,694,156
同窓会費		
人文学部同窓会	185,500	185,500
教育学部同窓会	112,000	112,000
医学部医学科同窓会	78,400	78,400
医学部保健学科さくら会	140,000	140,000
理工学部同窓会	252,000	252,000
農学生命科学部同窓会	150,500	150,500
預金決算利息	14	14
計	2,273,386	2,612,570
2. 支出の部		
項目	令和3年度決算額	令和4年度予算額
印刷費	267,432	320,000
役員費	299,367	298,220
会議費	589	30,000
旅費	0	5,000
通信費	5,874	6,000
消耗品費	858	3,000
雑費	5,110	30,000
繰り越し・予備費	1,694,156	1,920,350
計	2,273,386	2,612,570

## 令和4(2022)年度 弘前大学同窓会事業計画

1. 事業内容	
(1) 大学現況内容等の会報(年1回)の発行	
(2) 各学部同窓会間の連絡調整	
(3) 弘前大学同窓会ホームページ活用業務	
(4) 大学関係催事等への後援・協賛	
2. 事業費	
(1) 印刷費	320,000円
・会報24号作成	270,000円
・封筒(角2・長3)作成	50,000円
(2) 役員費	298,220円
・役員 @1,147円×260時間=298,220円	
(3) 会議費	30,000円
(4) 旅費	5,000円
(5) 通信費	6,000円
(6) 消耗品費	3,000円
(7) 雑費	30,000円
事業費計	692,220円
令和4(2022)年度 弘前大学同窓会「吉田基金」事業計画	
1. 事業内容	
(1) 国際化教育支援	
2. 事業費	
(1) TOEIC賞副賞	200,000円
・100,000円×2名分	
事業費計	200,000円

## 令和3(2021)年度 弘前大学同窓会「吉田基金」決算報告書

1. 収入の部		
項目	令和3年度予算額	令和3年度決算額
前年度繰越分	1,300,138	1,300,138
預金決算利息	10	12
計	1,300,148	1,300,150
2. 支出の部		
項目	令和3年度予算額	令和3年度決算額
TOEIC賞副賞	200,000	100,000
予備費	1,100,148	1,200,150
計	1,300,148	1,300,150
令和4(2022)年度 弘前大学同窓会「吉田基金」事業予算書		
1. 収入の部		
項目	令和3年度決算額	令和4年度予算額
前年度繰越分	1,300,138	1,200,150
預金決算利息等	12	10
計	1,300,150	1,200,160
2. 支出の部		
項目	令和3年度決算額	令和4年度予算額
TOEIC賞副賞	100,000	200,000
繰り越し・予備費	1,200,150	1,000,160
計	1,300,150	1,200,160

## 編集後記

◇新型コロナの収束がまだ曖昧かつ世界情勢が混沌としている中で、漠然とした不安に覆われたままの心は、福田学長の希望溢れる言葉に奮い立ち、千葉副会長の作品に安らぎを感じる。  
◇学長と学生との懇談会や学生広報スタッフの様子を紹介した。福田学長が目指す学生主体の大学像をひと感じる。この大学像の充実、学生の更なる飛躍のために、是非同窓生各位の様々な一助を。  
◇キャリアセンター主催の企業等見学会や総合文化祭の様子に、アフターコロナが垣間見え、同窓生各位と在学生との間の仕切りも低く、関わりやすくなったように思う。ご紹介したサテライトの活用も含め、同窓生各位のホームカミング加速に期待する。  
◇一方で、まだまだ支援が必要な学生も存在する。同窓生各位からの変わらぬ温かいご支援を、引き続きお願い申し上げたい。

## 私たちが編集しました

委員長 一條健司  
委員 泉谷安規 森岡欽吾  
對馬浩二 福島成利  
田村一期 樋口毅  
小山内暢 太田一輝  
芹田美穂子 松崎正敏  
栗田大輔 工藤睦男  
弘前大学同窓会事務局  
TEL 0172(39)3490

